

# 平成 30 年度第 3 回上越市地域包括支援センター運営協議会 次第

日時：平成 31 年 2 月 7 日(木)

午後 7 時から 8 時 30 分

会場：上越市役所 401 会議室

## 1 開会

## 2 あいさつ

## 3 議題

### (1)平成 30 年度地域包括支援センターの業務について

①平成 30 年度の地域包括支援センター再編後の業務について(資料 1)

②地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた取組について(資料 2)

③介護支援専門員への支援について(資料 3)

### (2)平成 31 年度地域包括支援センターの業務について

平成 31 年度地域包括支援センターの重点取組方針(案)(資料 4)

### (3)地域支え合い事業について(資料 5)

## 4 その他

## 5 閉会

## 1 平成 30 年度地域包括支援センターの業務について

## (1)平成 30 年度の地域包括支援センター再編後の業務について

- ・人員増加によって、地域の会議や困難ケースへの対応を多職種で連携して行えるようになり、多角的な視点で業務に取り組めるようになった。
- ・医療機関との連絡の窓口を保健師が担うことで、医療連携がスムーズに行えるようになった。
- ・実態把握業務に関し、毎月目標を設定する、日を設定して集中的に実施するなどし、昨年度に比べて約 1.2 倍に増加している。※4,516 件(H29.12 月末)→5,543 件(H30.12 月末)

## 【課題】

- ・障害者と高齢者世帯など複合的な問題のあるケースが増えてきており、対応について苦慮している。
- ・精神科病院との入退院に関し、連携がうまくいかず苦慮している。
- ・障害福祉サービスから介護保険サービスへ移行する人の支援に向け、障害福祉サービスについての理解が不十分である。障害の相談支援専門員の資格を持つ職員がいないため、資格取得を目指す必要がある。

## ①研修会の開催状況

開催日時	対 象	内 容
5 月 11 日	地域包括支援センター	第 1 回地域包括支援センター職員研修会 ・4 月からの業務の進捗状況について ・H30 年度の地域包括支援センター職員研修会について ・専門職としての地域包括支援センターでの業務について
6 月 27 日	通所介護事業所 居宅介護支援事業所 地域包括支援センター	第 1 回総合事業通所型サービス事業所取組発表会 ・総合事業の通所型サービス事業所における現行相当・緩和した基準のサービスで創意工夫した取組内容の発表
7 月 13 日	地域包括支援センター	第 2 回地域包括支援センター職員研修会 ・上越市認知症施策総合戦略策定に向けて(認知症当事者や家族に必要な支援について)
8 月 10 日	地域包括支援センター 管理者	地域包括支援センター管理者意見交換会 ・運営状況を確認するための意見交換
8 月 31 日	地域包括支援センター	第 3 回地域包括支援センター職員研修会 ・高齢者虐待の対応について(高齢者虐待対応マニュアルの活用について)
9 月 13 日	地域包括支援センター 介護支援専門員	定期巡回・随時対応型訪問介護看護セミナー ・国の介護保険制度改正、定期巡回・随時対応型訪問介護看護のサービスの使い方や、ケアプランの立て方について

10月24日	通所介護事業所 居宅介護支援事業所 地域包括支援センター	第2回総合事業通所型サービス事業所取組発表会 ・総合事業の通所型サービス事業所における現行相当緩和した基準のサービスで創意工夫した取組内容の発表
11月9日	地域包括支援センター	第4回地域包括支援センター職員研修会 ・市の総合事業の考え方 ・介護予防ケアマネジメントの考え方
11月29日	介護保険事業所 障害福祉事業所	障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行に関する説明会
平成31年 1月11日	地域包括支援センター	第5回地域包括支援センター職員研修会 ・認知症に関する医療機関との連携について(認知症疾患医療センター職員講師) ・医療連携について

- ・2か月ごとに、事務局による巡回訪問を実施(4月、6月、10月、12月に実施済)。
- ・H31.2月に事務局による巡回、3月に職員研修会を実施予定。

#### <研修会開催後の地域包括支援センターの取組状況について>

##### ○高齢者虐待への対応について

- ・通告受理から安否確認まで、高齢者虐待対応マニュアルに沿って迅速に対応している。
- ・虐待が終結になったケースについて、介護支援専門員への支援を継続し、再発を防止している。

##### ○認知症高齢者への対応について

- ・認知症初期集中支援チームや市保健師と連携しながら早期発見・早期対応に努め、必要に応じて医療機関とも協力して対応している。

##### ○介護予防ケアマネジメントの強化について

- ・「市の総合事業の考え方」と「介護予防ケアマネジメントの考え方」について研修会を開催した。
- ・「自立支援」・「重症化予防」の視点を取り入れたアセスメント及びプランを作成している。
- ・今後、チェックリスト対象者や要支援者に対して、高血圧や糖尿病など、生活習慣病の一層の重症化予防を推進するため、次年度も引き続き介護予防ケアマネジメントに関する研修会が必要であると考えます。

## (2) 地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた取組について

## ① 日常生活圏域地域ケア会議

目的	地域ごとの課題に応じた解決策や必要な地域資源を地域で開発し、住民組織や関係者の役割や得意分野を生かした地域づくりに繋げる。	
開催数	各地域包括支援センター3回ずつの開催 ※H30.12月末現在、28回開催済	
開催内容	目的	内容
	脳卒中や生活習慣病の予防を考える	○リボン地域包括支援センター サポート医である古澤医師からの講義により、高齢者がかかりやすい病気を予防するための取組や、地域の高齢者を見守る上で必要な視点を学び、参加者自身の健康管理や、地域での高齢者の見守り活動に生かすことに繋げた。
	地域における見守り体制を考える	○浦川原地域包括支援センター 地域の課題や強みを確認・共有するために、自治区ごとにグループワークを行い「これから自分たちが地域でできること(世代を超えた交流会の企画、ひとり暮らし高齢者世帯への声掛け等)」を話し合い、地域のつながりを強めるきっかけとした。

## ② 個別地域ケア会議

目的	多職種協働による多角的なアセスメントや事例研究を行い、介護支援専門員を始めとした関係職種の資質の向上に努める。
開催数	各地域包括支援センター6回ずつの開催 ※H30.12月末現在、54回開催済
開催内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の「できないこと」だけでなく、「できること」に着目したアセスメントの重要性を確認した。</li> <li>・ADLだけにとらわれない、生活の質の向上に目を向けた支援策を検討し、サービスありきではない、家族支援やインフォーマルな支援も取り入れた関わり方を確認した。</li> <li>・事例研究から見えた地域課題は、地域ケア会議のテーマに取り上げて協議を行っている。</li> <li>・個別地域ケア会議後、事例提供者が、今後のケースとの支援の視点がどのように変わったか、これからどのような支援をしていきたいか等の考えを述べている。</li> <li>・事例に対応する時の参考資料としての活用を目的に、年間の事例集を作成して関係機関に配布している。</li> </ul>
次年度の対応について	個別地域ケア会議後の事例の支援経過について、参加者に報告を行っていなかったため、次年度からは、個別地域ケア会議で行った研究事例の支援経過を6回目の個別地域ケア会議で報告する、年度末に作成する事例集に支援経過を記入したりする等の対応を行う予定。

## (3) 介護支援専門員への支援について

## ①研修会の開催

目的	医療機関等との関係者との連携推進や困難事案に対する実践力を向上する。	
開催数	18回開催済 ※H30.12月末現在	
開催内容	目的	内 容
	薬に関する基礎知識を学ぶ	<p>講師：薬剤師</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飲み薬の正しい飲み方や、塗り薬の正しい塗布法のほか、睡眠薬の種類や効能について学ぶことで、高齢者や家族への助言を行うスキルを身につけられた。</li> <li>・薬剤師への相談の仕方、窓口を確認でき、薬剤師との連携が取りやすくなった。</li> </ul>
	介護予防のポイントを学ぶ	<p>講師：看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、歯科衛生士</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの専門職の視点を学び、相談機関等の窓口を確認でき、多職種連携が図りやすくなった。</li> <li>・グループワークに各講師が加わったことで、専門分野での具体的な支援方法を確認した。</li> </ul>

## ②日々の支援

- ・介護予防ケアマネジメントについての内容の相談、助言
- ・予防に資するケアプラン内容になっているかの相談、助言
- ・インフォーマルサービスの検討、導入が行なわれているか
- ・処遇困難事例への支援 等

## 2 平成 31 年度地域包括支援センターの業務について

### 平成 31 年度地域包括支援センターの重点取組方針(案)

第 7 期介護保険事業計画・第 8 期高齢者福祉計画に基づき、高齢者のみならず、障害のある人も包含する「上越市版地域包括ケアシステム」の構築に向けての取組と認知症に関する課題とを整理し、今年度策定を進めている認知症の人やその家族の声を幅広くお聴きして、認知症の人やその家族の視点に立って施策をまとめた「上越市認知症総合戦略（上越市版オレンジプラン）」に基づき、以下の取組を重点的に行う。

#### (1) 上越市版地域包括ケアシステムの構築

##### 【現状】

引きこもりや障害のある人の相談支援を行う機関が市内に 1 か所であり、13 区など全市をカバーする相談支援体制が不十分な状況にある。

##### 【今後の方針】

平成 32 年度から地域包括支援センターに引きこもりや障害のある人の相談支援について業務を付加することを検討している。

##### 【平成 31 年度の方針】

平成 32 年度からの地域包括支援センターにおける引きこもりや障害者に対する相談支援体制について検討を行う。

#### (2) 上越市認知症施策総合戦略（上越市版オレンジプラン）に基づく認知症施策の推進

- ・ 市民が認知症を正しく理解し、全ての認知症の人が安全・安心な生活を送ることができる状態とするため、実態把握訪問や地域の講座で「認知症を理解するリーフレット」を配布し、認知症の予防や早期発見の重要性など、認知症に関する正しい理解の普及啓発に努める。
- ・ 認知症に関する知識や対応能力を高め、地域で気軽に認知症の相談ができる「認知症のなんでも相談室」の役割を担う。

### 3 地域支え合い事業について

#### 【地域支え合い事業の目的】

- ・高齢者が気軽に集まり、交流を行うことにより、閉じこもりや心身の機能低下を予防し、介護予防につなげる。
- ・認知症の人とその家族等の集いの場、介護者家族の集いの場をサロンとあわせて実施して介護者家族等の交流を図り、在宅介護における負担や不安の軽減を図る。

#### 【これまでの経過】

- ・平成27年度から、市内28の地域自治区ごとに、「すこやかサロン」「介護予防教室」「認知症カフェ」「介護者家族の集い」を週2～3回程度実施している。
- ・これまでは、新規参加者の確保や男性参加者が少ないことから、男性を対象としたサロンを開催したり、内容に囲碁や将棋を取り入れたりという工夫をしてきた。

#### 【課題】

- ・本事業の対象として市がターゲットとして考える、閉じこもりや心身機能の低下が懸念される高齢者や、介護負担を抱える家族等が、地域支え合い事業の利用につながっているか不明確であり、今後更に介護予防につながる事業とするための工夫や取組が必要であると考えている。

○平成 30 年度すこやかに老いるための市民啓発講座の実施状況

【目 的】

高齢化の進展等により今後増加が予想される骨折・認知症の予防の知識普及や在宅で介護・医療を受けながら暮らすための市民啓発講座を開催し、介護予防や今後どのように老後を過ごしていきたいかを自身で考えてもらう機会とする。

【実施回数状況】

4 回コース、28 地域自治区で合計 112 回開催。

【実施内容と参加者数】

回	内 容	講 師	参加者数
1 回目	「高齢者の総合相談窓口の紹介」 「上越市の高齢者の医療や介護の実態について」	地域包括支援センター 市職員	140 人
2 回目	「今日からできる転倒・骨折予防」 「口からの介護予防」	理学療法士・作業療法士・ 柔道整復士 等 在宅歯科衛生士	212 人
3 回目	「認知症の正しい理解と予防について」	認知症疾患医療センター	185 人
4 回目	「実際の在宅介護体験から学ぶ」 「今後の人生設計について考える」	ケアマネジャー 市職員	184 人
合 計			721 人

【参加者の年代】

年代	割合
54 歳以下	3.7%
55～59 歳	2.2%
60～64 歳	7.4%
65～69 歳	12.5%
70～74 歳	18.4%
75～79 歳	27.5%
80～84 歳	16.9%
85～89 歳	5.4%
90 歳以上	0.6%